

2016年10月3日

新たな医療の在り方に関する論点

ハイズ株式会社 褒 英洙

1. 医療機関におけるマネジメント人材の育成

現状では、医療現場を理解しつつマネジメントが分かるハイブリッド人材が少なく、各部門の個別最適に陥りがちである。一般的に、医療職はプレイヤーとしての訓練は受けるが、マネージャーとしての訓練は受けずに、我流のことが多い。多職種が関与する全体最適にはマネジメントの視点は不可欠である。

2. 医師確保の困難さとミスマッチ

中小病院、特に地方の病院は若手医師の確保が難しく、既存のベテラン医師に負担が大きくなるケースが多い。医局の医師派遣機能も往年の力はなく、病院独自で医師を見つける場合が多い。運良く見つかった場合でも、勤務形態や福利厚生、待遇面での折り合いがつかず早期に離職になることも少なくない。

3. ”希少医種”の現状分析と業務負担の軽減

医師の診療科の極端な偏在により、提供体制として量的・質的にアンバランスな部分がある。例えば、病理専門医は30万人の医師のうち2千人ほどで、平均年齢が50代後半である。若手専門医の少なさと高齢医師への負担も鑑みて、近い将来にがん診断の停滞が危惧される。

以上